（大正十年四月二十日 第三種郵便物認可）

昭和十五年十二月二十七日 磐城毎日新聞 〔金曜日〕 第六千六號 〔一〕

二十六日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部 税共 金二錢
□廣告料一行 金十錢
□號外一枚 金九十錢
□場所指定一行 金一四錢
□電話（平）一七八六番
□振替口座東京一〇八五五
編輯兼印刷人 森合英
發行所 磐城毎日新聞社

人抄評〔上〕

小谷野煥

久しぶりで批評の筆をとった。批評を書くながらでも遠ふものであるが、僕にとつて批評ぐらゐ馬鹿々々しいものはない。啓蒙的な批評が出來るわけでなく自分の爲になるわけでない一言ですむ事をくだくだと述べ、歌はれてゐることを不必要に敷衍し、挙へ目になればなまぬるいと言はれ悪口を叩かれるまれる。こんな割り合はない商賣、又とあるまい。結局は作品のまはりを遠くまめぐりして次に移るといつた鹽梅になる。

そこで今月の集中から誰かの變名愁夢二氏を真先にとらへて、本人がわからぬ氣易さのまゝ悪口の第一矢を奉りたい。

愁夢二氏

大体の作者は歌をあまく見過ぎてゐはすまいか。ペンを持てば何でも歌になるといつた様な、ふな態度が見ゆる。變名で出したのも自分の作品に鉛うつは面映ゆい感じがあればそであらう。いはば自尊心へのカムフラージュである自分できへ氣はづかしい物なれば人が讀んでも感じである。

高麗川　夏さり行けばうらさびしかの情熟の乙女明けしかの情熟の乙女あもほゆ

夏を病む赤城の乙女の寄がきの繪にも　みじみ夏のあはれる

何れも素材は甘やかしすぎてゐる。筆先で勝手に一つの世界をこしらへて、その中で作者はねころんでゐる。作者の　やけ、笑ひによんでもらへまらつい。繪から「夏のあはれる」を感じたのはなぜ「赤城の乙女」とはどうしふつもりなのか内容のわかつぬ點も多い。

小女子の今宵寒みぞと待つ門に夜露に濡れし夕顔の花

これしても少しも實感としていびいて來ない。繪のやうだなと感ずるだけである。

都鹿川の篠　変れる撫子は見るひとなしに咲き一散るらん

こんな感傷は病身の乙女にまかせて置きたい。青年の血が脈うつてゐる腕ならこんな情ないことは書かないでもらひたい。

案富金次郎氏

友に買ひしみやげ取上げ茶店の婆は箱に入れかへてつつみ渡しぬ

此の歌は焦點がやゝらに下にさがつていつて遂に逃げてしまつたやうな感じがする。それとふのは作者自身も亦確たる中心をつかまへずに、その時の景を易々と歌ひ流してしまつたからである。

箱に入れかへること」に心をひかれたし、が、果してここに歌想を考へるに苦しむ。

三笠艦潮海戰ものもの

し旗今もはためきてゐる

「潮海戰ものもの」といふからには、その説明がなくてはなるまい。Z信號旗をもつて來たのも少　不用意で。説明があまりに間接的すぎるやうだ。

うらかに風港晴　て海上に赤波打　りかもめ飛びかふ

この歌が中で一番すぐれてゐたと思ふ。

青田美津子氏

花房詠草

松村　あけみ

○ゆらゆらと川の眞上に落ちかかる凧を追ひつつ岸ぬどはめく

○川水に紅の色のにじみ　凧引上げ　持ちあぐむ人

○晴清　巴が空に取組みていづれ　勝た糸の張り

紛の日　湧き出づ

空に栗の花房が黄ばむ

これも「が」をとつて「栗の花房黄にゆらぎつつ」

どちらも甲乙の作と思ふ。

全体この作者の歌には細かい感情がたみこまれてゐて如何にも女らしく苦心して作りながら調和を欠いてゐないのはよい素質のあるであらう。

連續講談　異說赤穗浪士

別國「異說赤穗義士」「赤穗誠忠錄」

〔90〕

桃川若燕　筆記　城木喬

船上の秘話

『働きたいと仰やつても手前共は此の通りの船宿で剣術の道場ではございませんから　若様がお働きなる事は出來ません』

『イヤ船宿で見れば船頭云ふ者がゐるだらう』

『へエ船頭は居ります』

『その船頭になりたいと思ふのだが』

『冗談仰しやつちやア不可ません、お武家が船頭になれるもんぢやアございません』

『イヤ然うではない、拙者は播州に居つた時、川や海へ漁に參つて船を漕いだことがあるから、船を漕ぐことは慣者なものだ』

『へエー船は達者でございますが船頭の稼業と云ふものは板子一枚下は地獄でございます、萬一の事があつた時に泳ぎが出來なくちやアなりません、泳ぎの方は出來ますか』

『泳ぎは達者だ、河童から盆暮には附届がある』

『御冗談仰しやつてはいけません、それちやアマアそれも宜いとして第一船頭には左様でござる、ではござるといふその言葉ちやアいけませんね』

『イヤ大丈夫、ぞんざいにやれど申さば直ぐにもやつて見せるぞ』

『やれますとも、疑ふなら、又之亟やつて見せるから聞いてゐろ――ヤイ喜三郎、何を愚圖々々してやがるんでい、箒棒奴、手前なんか棺桶の端へ腰を掛けて冥土の迎ひを待つてゐやがるんだらう、サアまご〳〵してやがるぞ、土手腹へ鯉師を打ち込んで猫をのしかけるぞ、サアどうだ』

『もう〳〵よ、よろしうございます、そんだけ出來れば學山だ』

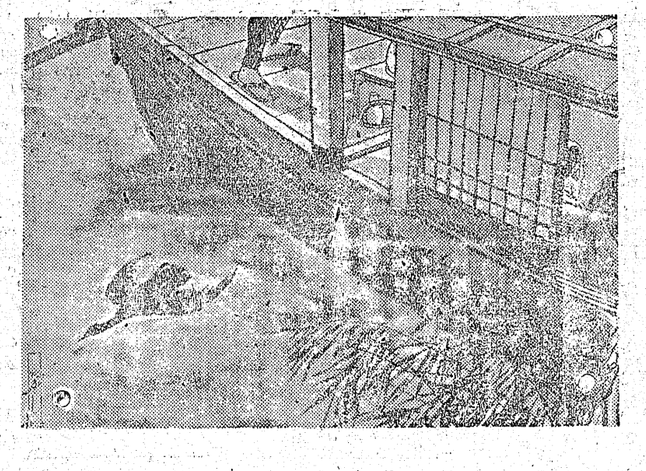
『どうだ旨からう』

『旨ま過ぎまさア』

『氣に入つたらもう一度やらつか――』

『もう宜しうございます、それちやア當分家にゐるやつ　御覽なさい』

と云ふので又之亟それから家へ歸つて喜三郎の許



四十六七にもなるか立派なござらぬわ』

『そこで亟が見附西にある容姿、屋根船へ乗込むとアレから船を出し深川へ行つて又戻りに今度は待合はし限りは迎ふ歯はたつまい』

船頭をつとめるかこれも同じ年配の武士が乗込んだ、船頭は判らないのが道理だ、

又之亟　又吉。ギイ〳〵〳〵チャツチャツ――ところ昔水戸を立つて、隅田川を溯る、ときは春の半、両岸に立んだ櫻を盛りと亂れ咲き右の津輕屋敷左の十州屋敷の美事な庭が眼に映る

『アヽ新江氏、千坂殿かのお話しは――』

『まだ參らぬが、聞けば猿橋を初め　四五のものを京地に遣し限り、それよりの知らせに浪士のもの共不穩の模樣ないとか申し參つた』

『ウム城代の大石はお身も知る如く遊惰、これに從ふものも今は回散し、江戸在住のものの達も祿に離れ無し力の武士、何を致しやうも

昭和十二年十二月27日

その日〳〵

○

君子は財を惜しむこれを用ふるに道あればなり

佛源禪師

▽伊豆新島に激震（昭和十一）▽濟南城陥落（昭和十二）

内臓科　内科　外科　腦脊髓病科　産科

整形科　外科　レントゲン科　理學療法科

醫學博士　松村亨

肛門科　胃腸科　内科　花柳病科　皮膚科　泌尿器病科

醫學博士　松村鐵郎

平市南町　電一〇七　松村醫院

とんかつ專門の店　奥亜の誇を誇りとする　御ひいきで御引立を願ひ致します　▼出前は迅速に御つとめ致します　平市仲田町（電話四六五）　かのの家

一タバコをヤメルのによくきく藥　▼確實に禁煙に成功の出來る　禁煙含嗽藥「ニコチロン」　一瓶一圓　を是非御試用を御勸め致します　漢方胃腸藥の　專賣所　山野邊藥局

鳩尾を落すこと　身體がメキ〳〵丈夫になる　▼實驗上より見たる適應症　胃腸病　胃酸過多症　胃アトニー　胃下垂　胃擴張　下痢　便秘　血壓亢進　動脈硬化　神經衰弱　不眠症　頭痛　頭重　生殖器障害　鼻病　心臟病　胸部疾患　脚氣　精力減退　鳩落加壓器（ラヂウム包含）　正價　金拾五圓也　送料（内地三十五錢　海外六十五錢）　製造頒布元　東京　林式健體會本部　特約頒布所　平市　銀治町一〇（縣社）　阿康藥局　電話四四番　振替東京三〇〇五番

協賛　帝國發明協會　實施推薦

鯛　ヒラメ　甘鯉　エビ　マナ鰹　白魚　帆立貝柱　カツノコ　ウニ貝焼　鮮魚は東京特約　丸一魚類株式會社　平市仲町　電話八一尾一箱ヨ　迅速ニ致リマス

「苦勞は無益で」　三行圓　一歩一歩ず老の山　世交お淡しくぶらぬうち　無益かけしつ今のうち　磐城無盡

軍服と國民服　高島屋の洋服　並に文具製品御引受に　平市二丁目通　電話三六八番

おでんと　ヤキトリ　田町末廣トナリ　一柳

肉の御用命は　三三屋　牛も豚も優良品の自慢

ぎつね屋　桑原柔道整骨院　平市公園下　電八七四

時局ノ生ンダ新案特許　日ノ丸習字板（第二八〇九七號）　使用法半紙節約ノ目的ニテ考ヘテ實ヲ際藤市ニテ試テ載ケバ初回ニテモ使用出來マス　實用新案　メモ板　第一七〇九〇四號　野球用ボール　第一七九七二號　興亞ノート　第二四七九八號　專賣特許　興亞厚紙（第（イ）一七三六（ロ）一七三六號）　平市月見町十三　興亞特許商事　月見町三十三　同工場

メガネ專門の店　メガネは絶對信用のある當店に　先づ御來店御覧下さい　平市本町二丁目　玉屋

お醬油は……ヤマフル　味噌醬油　ひら正宗　調節食品料　塩屋　山崎合名會社　福島縣平市　電話（營業部一〇番　本店二七番）　明治　命磐城代理店　山崎與三郎

男女　車掌募集　數名　年齢16……19　永經驗者ニテモ可　給料其他委細面談　平市驛前　野崎交通自動車株式會社　電三四〇・三四三

四邊一ぱいに漂ふ　冬景色を！　お賞て下さい。　國鐵指定旅館　小瀧　電話小名濱一〇三

小名濱玉川の合併案
電撃的に進む
二千六百年記念、年内に決定

小名濱町、玉川村の合併問題は玉川側の不賛成から意見が一致せず停頓状態にあつたが昨廿五日午後一時玉川村では突然全村議出席役場に合併問題に關する協議會を開き、小名濱側から特に小野町長が出席『合併異議なし』と急速な成立を望むに至つた、このため小野町長並に宮内村長別室に懇談、出來得れば二千六百年記念事業とすべく取急ぎ二十八日町村會を招集、合併條件を審議、直ちに委員を擧げてこゝ三、四日中に議を纏めようと逼迫した歳末の慌しい中に電撃的な合併へ一路邁進することになつた

平商業報國會
青年隊の結成を急ぐ

平商工會では縣の指示に基き商業報國會の青年隊を結成すべく目下十八才から三十五才までの青年の申告を求めつゝあり、商業組合とは別個に結成の計劃を急いでゐる

青年隊は主人と店員の區別をつけず報國會の推進隊と成つて第一線に立つて活動するものであつて廣告研究會を改組した「平商業報國隊」も青年隊に包含され一日の長あるを以て青年隊の中心と成つて指導的に職域奉公を實踐する譯である

縣石炭鑛業會創立
資材の供給と増産目標

常磐地方六十餘の中小炭礦を以て組織された福島縣石炭鑛業會の創立委員會は二十五日午前九時から同創立總會は午後一時から平市常陽銀行支店樓上に於て各炭礦主六十餘名仙台鑛山監督局、縣山林課、東北坑木株式會社、平署經濟係常磐石炭株式會社等より係員列席開催された、同會の目的とするところは炭礦用資材の圓滑なる供給をうけ配給の公平を期して増産に拍車、燃料國策の線に添はうとするもので事務所を平市才槌小路常磐石炭株式會社平支店内に設置活動を開始する事となつた、役員左の如くである

△會長古賀春一△副會長戸部光衛　松平安彦△理事日曹鑛業、大澤炭鑛、隅田川炭鑛、日高見鑛業、山添炭鑛、昭和炭業、△常任理事鶴山菊次郎△委員大和炭礦、瀧炭礦、品川炭礦、興亞採炭、小田炭礦、壽炭礦、浪花炭礦、石城炭礦、東海炭礦、金山炭礦、三松炭礦、日新炭礦

△顧問、關内縣議、蓮沼縣議、野崎滿藏

石城産馬組合
功勞者表彰

□聖紀を記念十五名

石城郡産馬畜産組合では明治三十三年六月組合創立以來四十周年となるので紀元二千六百年の記念を兼ね馬産改良の功勞者左記組合員十五名を二十九日午前十時から市内團体事務所樓上に於て表彰する事となつた

山野保次(上遠野)北郷三郎平(磐崎)折笠鑛信(入遠野)蛭田千代之助(田人)油座菊次郎(田人)小宅好文(田人)會津保見(永戸)大竹義隆(三阪)齊藤壽(浪江)柴崎佐七(永戸)宇佐美今次(川前)赤塚スエ(川前)草野宇多吉(上小川)國井金吾(上小川)矢内半藏(川前)

元日は明朗に迎へよ！
享樂營業緩和
但し儲け主義は絶對排撃

2601年は明朗に迎へるやうに……との親心から元旦の興亞奉公日はお預りして享樂方面の營業も許し、書酒も五日まで認めることに成つた

二十五日午後一時から平署の會議室へ日本料理、西洋料理飲食店、旅館業、遊戯場其他管内の享樂業者代表を集め"年一回のお正月を明朗に迎へるやう、内務省の親心で新春元旦の興亞奉公日は特に一般享樂營業を認めることに成つた"と業者にとつて嬉しいお達しがあり

元旦から五日まで午前十時から書酒販賣を許し五時まで停止されてゐた歌舞音曲も午後三時より認められたので盛り場は甘つたるいカフエーのレコードや正月を壽ぐ新年宴會などの三味大鼓で賑やかになることであらう

警察側では但しと特に聲を大にして業者に注意を與へたことは"親心を曲解して絶對行き過ぎぬやう"と左の點を强調してゐる

正月の享樂營業を緩和したのは營業者に對して"無く大衆のために爲したものであるからこの點を深く心に止め、この際ウソト金を費はせてウント儲けようなどと不心得を出してはいけない、一般に酒も不足することだらうが馬鹿騷ぎや度を過ぎぬやう酒の販賣制限には特に注意を拂つて貰ひたい

◇上等酒一合　四十錢
◇並等酒一合　三五錢
◇合成酒〃　〃
◇ビール四合　六五錢
◇ビール一立　九五錢
◇ビール二立　二圓

今回の酒販賣價格改正で第一種日本料理、第二種西洋料理第三種特殊料理(南町小料理)一般飲食店、旅館共上下の區別無く全部一率と成つた、從つて上戸黨は料理店が高くて飲酒店が安い、第三種營業者でぼられるなどの心配が無く何處でも安心して酒を呑まれることになつた譯である

各業者一率に
お銚子も値下げ

格も左の如く改正、お銚子一本五錢値下げを發表、二十五日即日實施することに成つた

石城産馬申請の
國有牧野開放
石城、双葉で三百餘町歩

石城郡産馬組合では馬産改良の爲豫て農林省に國有林野の開放方申請中のところ調査の結果左記山間部の放牧地使用が許可となつた

石城郡永戸村合戸地内四十七町歩、同三阪村上三阪四十七町一段七畝、同村中三阪十七町八段二畝、同村差鹽三十八町六段四畝、同小川村上小川百町歩(双葉郡の一部を含む)同大野村六十町歩

年賀狀
特別扱ひは兵隊さんだけ
前線へ

虚禮廢止と物資節約の見地から「新体制は年賀郵便の廢止から……」と賀狀廢止が要望され郵便局でも時局に沿ふて今年は年賀郵便特別取扱が許可となつた

一、今年より年賀郵便の特別は停止となりましたが年賀郵便の取扱は廢止されません、

一、故に戰地の兵隊さんに宛てる年賀郵便及慰問小包等は少しも早くそして澤山差出していたゞきたい、

一、一般贈答用小包は此際極力差出を御遠慮願ひ度い

一、「マッチ」は郵便禁制品ですから差出す事が出來ません、

一、小包郵便物として當分引受を停止されたるものは左の通りです、

ひを廢止することに決定、これが爲一般に年賀狀は受つけないものと誤解してゐる者の多いのを遺憾として歳末忙繁期に際し左の點を一般に周知せしめ戰地の賀狀は變りなく特別取扱ひする旨强調してゐる

軍刀種に
時局詐欺

防犯中の捕物

本籍双葉郡川内村大字下川内生れ住所不定機曳業横田幸一(三)は防犯週間中の二十四日午前十時頃大野村徘徊中駐在所富田巡査が衆動不審で四倉町まで尋行本署へ連行して取調べの結果本年八月上旬頃石城大野村字玉川農荻榮(三七)方で『私は歸還兵の曹長であるが出征中に使用した軍刀を君に安く賣るから』と稱し仲町料亭吉野家へ登樓し二十四圓の遊興費と軍刀の内金二十圓を騙取逃走した時局利用の詐欺事實判明余罪ある見込にて引續き取調中

歳末總勘定に備へ
窓口扱ひ延長
貯蓄報國に平局頑張る

2600年の大晦日總勘定に備へ一般の金錢出納の繁忙に平郵便局も呼應百廿億貯蓄最後の頑張りと本年も爲替貯金及び保險年金その他窓口現金取扱事務を延長日曜の廿九日は平常通り午後三時まで三十三十一の兩日は一時間繰延べ午後四時までとすることに成つた

尚ほ月掛及び集金貯金保險料、年金掛金の集金は元日より五日まで事務を休止する

防犯强調週間で
不良團も一掃
平署一週間の收獲

十八日から廿四日まで行はれた防犯週間中平署の警戒網にかゝつた獲物は次の通りであつた

△銃砲火藥取締違反…内郷村字高坂三浦德太郎(三)外四十四名は位れも短刀を懷中に映畫館、廣場等を横行してゐる處を檢擧

△好間村上好間山田實(三)は同村魚業中島信吉さん方から現金十八圓を盗んだ外窃盗二件で檜玉へ

△江名町漁業遠藤利保氏方漁夫鈴木千萬喜(三〇)は主家の漁夫部屋へ忍入りクローム側時計一個、雜品三十五圓相當分を掻拂つた外同樣五件を働いて同署に擧げられる

1、木炭及米穀(奉納米及檢査米を除く)
2、林檎、蜜柑、鮭、鱒(自十二月十日至十二月三十一日)

主のない大黒樣の本体は
盗んだ陰匿物
神罰覿面、隠し場を忘る

主のない大黒樣が喜の田圃から飛出し師走の街に話題となつてゐたがその後平警察署で調査の手を延してゐた處案に違はず犯人は十四才の少年と判つてお寶の大黒樣も盗まれた主へ返された

この大黒樣の所有主は平市六間門野崎自動車部運轉手近納信義さんで同じ六間門田中友市(四)假名が盗み出したが子供心の怖しさに一回に使はずうち二圓五十錢を費消し殘りの二十七圓五十錢を藪の中に隱してゐたのを場所を忘れてしまひ其の儘放つてゐたのを近所の子供達が發見したものである

無免許で
人を射つ
小名濱の密獵陳事

小名濱町愛宕下關清(四九)は二十四日午前十時頃泉村山林内で狩獵中兎と見誤へて同村字下川佐藤四松(四五)さんに發彈を浴せ頭部に重傷を負はせた尚怪闘は無免許で密獵してゐたものである

相撲の逆手で
學生の刄傷

泉村の不祥事發覺

泉村上山三瓶隆(二五)假名は去る廿名午後四時ごろ同村字下川農水戸丑之助方で同人の長男中學二年生清君(一三)と相撲をとつて負けたのを口惜しがり懷中に持つてゐたナイフで清君の右乳下を突き刺し重傷を負はせたことこの程發覺廿五日檜田署の取調べを受けてゐる、重傷の清君は小名濱町黑澤醫院に入院加療中である

自動車運轉手
合格者發表

廿四日縣保安課から發表された自動車運轉免許試驗合格者中地方關係次の通り

△平署管内　鈴木一男　久野周平　鎌田寅二　永山渡柳内保　田中一郎

△種田署管内　高橋健治　鈴木吉彦　渡邊哲男

△四倉署管内　酒井正美

賣買契約で
石炭詐欺

四回で二千五百圓

平市才槌小路炭礦樣綱川隆和(四〇)は昨年十月頃内郷村榮炭礦の斤先掘をしてゐたのを種に同町石炭販賣業擴澤兼雄から塊炭賣買名儀で四百六十圓また本年一月頃東京市藩田區蓮沼町日本製鋼所から四百五十圓、外一ヶ所から同樣手段で四百十二圓五十錢、合計千二百二十二圓余を詐取、この程平警察署に檢擧された

家出娘の
溺死体發見

家庭の事情で自殺か

石城郡飯野村中山農鈴木ノブ(三二)は十八日家出行衛捜索中のところ二十五日朝同村吉野谷地内溜池に溺死体となつてゐるのを發見した、家庭に相當複雜した事情があり覺悟の自殺をなしたものらしい

正月酒配給所

小名濱五ケ所決定

小名濱町では正月の清酒配給を左の五店に指定し一家族一升を限度として配給する事になり近く各組長より配給券を渡す事になつた

古港　渡邊孫四郎、中島鈴木雄作、中町　住藤政治西町　波立末藏、松の中齊藤定次郎

小名濱町の
常會長内申

下部組織組に着手

小名濱町では逸早く大政翼贊運動の下部組織に着手、過般十七町内に分類、これが町内會長の人選も完了、縣へ内申中で近く決定を見る筈である

内申した町内會長左の如し

榮町馬目安一(製氷)東町野崎昇太郎(町議)古港志賀要平(同)諏訪町和田傳吉(元官吏)後宮近藤安雄(町議)中島小松重兵衛(同)中通り木田谷平(同)湯町比佐政種(同)新川丹野寛平(吏員)本町小濱長太郎(町議)竹町堀越壽之助(副區長)汐留初尾伊太郎(町議)西町高木惣治(同)須賀町長瀬要(同)鹿島松本房之助(同)高山竹上四郎(日窯工場長)芳川菅原彌作(元町議)

銀座會常會
元旦の初詣り

平市田町銀座會常會では新春元旦に午前八時半三群三十五戸から各一名宛集合、氏神物見岡稲荷神社で初詣りし、宮城遙拜、萬歳奉唱、それより隊列を作つて縣社八幡神社、縣社子鍬倉神社參拜二千六百一年の元旦を迎へることに常會役員會で決定、會費五十錢で五日新年宴會を開く

隣組しんぶん

守備隊通信
雪の曠野で
日旗章獲得の『北滿部落』

平市二丁目出身　森下良雄君【上】

昨日の夕方薄黑色の斑點な雲を見て『明日は雪だらう』と戰友と語り合つたが果して今日は雪となつた、白、白、白!!

眼界の限り銀世界だ、野も山も!! 屋根と言ふ屋根、樹木に白髪の樣に積つた雪、いつ見ても純白な雪は汚れなく美しい寒い風が空間に漲つて心から寒さが身に泌みる、〇〇屯の街の灯も疎になつて、遠くの方で寒さに惱む小犬の鳴く聲が聞える……、

簡單な文通のみで長い間御無沙汰しました、此の間獨立守備隊に轉屬するや直ちに第二期檢閲を受け終了直後匪賊討伐に出動したです、〇月〇日〇〇の部落に出動、トラックに滿載されて零下何十度の天候と戰ひつゝまつしぐらに目的地へ向つた、〇〇部落に宿營となるや、直ちに此の邊の警備に余念なく最早部落にも澤山の自警團(内地の防護團の樣なもの)が我々現役兵と一緒に警備するのも一寸風流なものゝ樣な氣がした、トラックにて毎日深夜、點々として匪賊を追ひ、車上の月影に我が身を寫し淸らかな月を体一杯に受けて慕進しつゝ北滿の一夜を明かす、大市街は勿論の事山中二、三軒の部落にも到る所日滿兩國旗が旭日の如く翻つてゐるのも心强い限りです、匪賊の横行に非常に恐怖してゐる部落民も日本軍が日章旗を翻ひして行くとそれは〜喜び、双手を擧げて歡迎し、いろ〜我々へ爲めにしてくれる、宿營すれば炊事の用意してくれるなど中々感心なものです、食事も終つて一寸の余暇に勞れた身体をオンドルの暖かさに包まれて休むひとときこそ我々の夢の天國とでも云ふのでせう!! 滿人達も大變兵隊になれて我々に大人謝謝(大人はえらい人、謝謝は有難うの意)と感謝し中にはあいまいな日本語を使ふニヤー(滿人をさすアナタの意)には益々話を掛ける、我々もいゝかげんな滿語を使ふ、お互に話しが通じなくなると我々の會話はこれでワンラ(終りの意)だ、

滿人達にも實に氣の毒な時がある、宿營して兵隊が室内に休む時など滿人は寢る場所を失ひ釜焚口で休んでゐるのです、不寝番に起きた時外は實に寒い、あまり可愛相になつたので澤山も持つてないタバコを一本づゝ滿人にやつたら、たつた一本のタバコで頭を二度も三度も下げて喜んでゐた、實際あの時は涙がこぼれた、

隣組
1、前線へ
2、銃後

隣組
1、防空
2、防諜

隣組
1、貯蓄
2、節約

隣組
1、國旗
2、國歌

オラヂオのロ原・ぬらし起障故

品級一定選定省工商は品製社會社株式電機無線口原

放送局型
放送局認定ラヂオ受信機特賣
期間＝自十二月一日　至一月廿日
價格＝公定價格

▽受信機五ケ月保證
▽眞空管二ケ月保證
▽ラヂオ聽取料一ケ月負擔
▽アース工事無料奉仕

特典＝
大日本電力會社
福島電燈會社
會津電ナ會社
区域内

定額電氣料ハ其ノ月無料從量ハ其ノ月加算セズ、屋内設備工事手數料特免

主催　東北ラヂオ商組合福島支部
後援　仙台中央放送局、縣下供電會社
ラヂオとデンキの店　古山電氣商會
平。二(警察署通り)(呼電一六六)

電話101番

本日より四倉局下電話新設致しました
セメント瓦工業部　西山嘉則
石城郡大浦村上仁井田

舊金曜新
十一月廿九日
甲辰二十七日
先負
定
鬼宿

前八、四〇
後九、三〇
潮三、四〇干
潮一、五五

今晩　北の風晴
明日　北西の風一時南西の風晴
二十七日

天氣豫報

▲一白　深入りするときは出道を失ふやうな注意日
▲二黑　常業は遲々たりとも捗り行く焦るは破の基
▲三碧　正道に依り進まば何事も我を妨ぐるを得ず
▲四綠　悅びも束の間に消えて爭ひと變じ易し注意
▲五黃　是まで難みに難み居たる事ども今日通達す
▲六白　少しの不服ありとも顏に出さず平和を願へ
▲七赤　次第次第に勢ひ付き來る入學開店名弘め吉
▲八白　思惑の實買に手を出すときは意外に失敗す
▲九紫　吉運の日なれども我意を張る時は過ちあり

映畫(廿六日替り)

世界館(新興)
東京作品
〃悲運の姉妹〃
主演　逢染　夢子　美鳩　まり　井上　清

東京都作品
〃女人峠〃
主演　市川男女之助　大友柳太郎　淺香新八郎　國友和歌子　森　靜子　歌川　絹枝　西の銀嶺

文化映畫
日本ニユース

聚樂館(東寶)
〃女の教室〃大會
(前、中、後全篇)
主演　霧立のぼる　千葉早智子　花井　蘭子

平市慶弔錄

【婚姻】平市研町一番地小柳八百造(西)さんと江名町折戸七十四番地吉田テウ(四一)さん△好間村上好間字道成川原卅七番地住藤兼吉(三三)さんと平市長橋町七番地佐藤ヤイ(三七)さん△平市長橋町二ナ一番地松本繁雄(二九)さんと田村郡宮城村字高倉先崎アエ子(二四)さん

【出生】△平市紺屋町五十番地酒井孝次郎六女愛子さん△平市紺屋町四十番地阿部勇治長男勇さん△平市平窪字眞似井三十番地根本直一五女榮子さん